

# ML5206

## 5 直列リチウムイオン セルバランス機能付き 2 次電池保護 IC

### ■ 概要

ML5206 は、3～5 セル・リチウムイオン 2 次電池パック用保護 IC です。各セルの過充電と電池セル接続配線の断線を検出しアラーム信号を出力します。また、セルバランス機能を搭載しており、自動的にセルバランスを行います。

### ■ 特長

- 3～5 セル 高精度過充電検出機能  
過充電検出電圧  $V_{OV}$  : 4.0V～4.4V(5mV ステップ) 精度±25mV(0℃～60℃)  
過充電解除電圧  $V_{OVR}$  :  $V_{OV}-0\sim 200\text{mV}$ (10mV ステップ) 精度±25mV～35mV(0℃～60℃)  
過充電検出遅延時間 : 0 秒～5.6 秒(typ)
- 断線検出機能  
断線検出電圧 : 0.6V(typ)  
断線検出吸い込み電流 : 100nA(typ)  
断線検出遅延時間 : 0 秒～5.6 秒(typ)
- セルバランス機能  
セルバランス検出電圧  $V_{CB}$  : 4.0V～4.4V(5mV ステップ) 精度±25mV (0℃～60℃)  
セルバランス解除電圧  $V_{CBR}$  :  $V_{CB}-0\sim 200\text{mV}$ (10mV ステップ) 精度±25mV～35mV (0℃～60℃)  
セルバランス電流 : 40mA(typ)  
セルバランス検出遅延時間 : 0 秒～5.6 秒(typ)
- 3 種のアラーム信号出力タイプ  
CMOS 出力／Nch オープンドレイン出力／Pch オープンドレイン出力から選択可能
- 電池セル接続数設定 : 形名で区別  
5 セル用＝ML5206-001、4 セル用＝ML5206-001A、3 セル用＝ML5206-001B
- 低消費電流  
動作時 : 1μA(typ)、2μA(max) (0℃～60℃)
- 電源電圧 : +5V～+25V
- 動作温度範囲 : -20℃～+85℃
- パッケージ : 8 ピン VSSOP

### ■ 用途

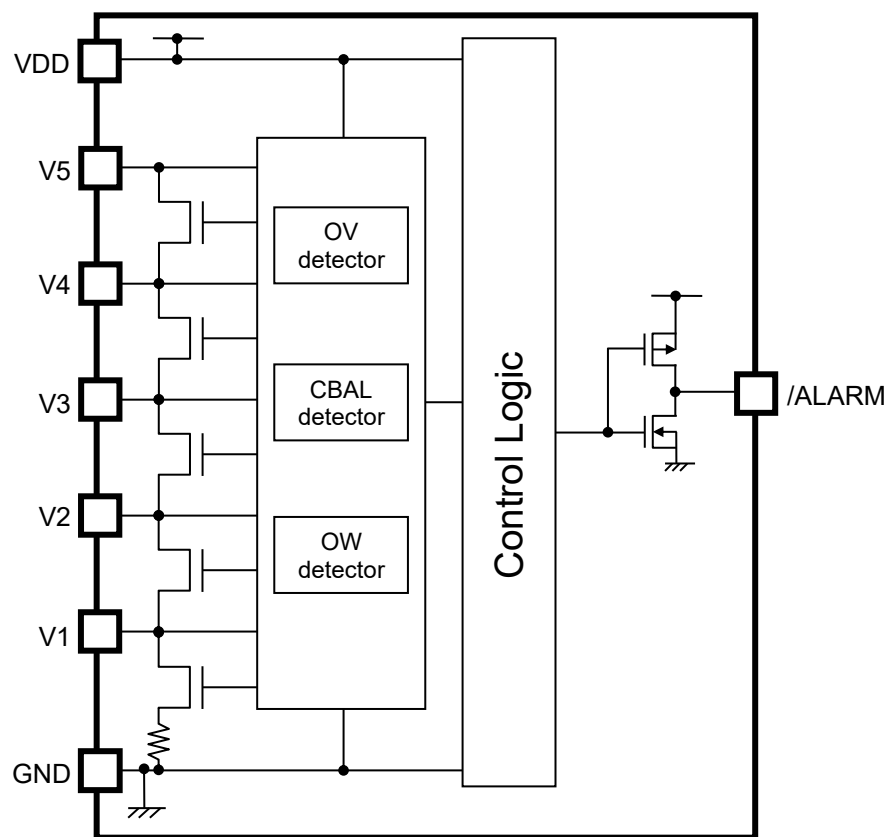
- ・電動工具／園芸用工具
- ・コードレス掃除機

### ■ 形名

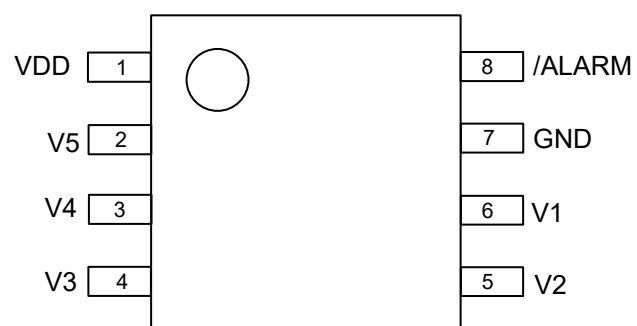
ML5206-001MB 5 セル、Nch オープンドレイン出力  
ML5206-001BMB 3 セル、Nch オープンドレイン出力  
5 セル、3 セルともに検出電圧などは同じです。



■ ブロック図



■ 端子接続図(上面図)



## ■ 端子説明

ピン番号	端子名	I/O	説 明
1	VDD	—	電源電圧入力端子です。
2	V5	I	電池セル 5 の正極入力端子です。
3	V4	I	電池セル 5 の負極入力端子、および、電池セル 4 の正極入力端子です。
4	V3	I	電池セル 4 の負極入力端子、および、電池セル 3 の正極入力端子です。
5	V2	I	電池セル 3 の負極入力端子、および、電池セル 2 の正極入力端子です。 接続セル数が 3 セルの場合は、GND 端子に短絡してください。
6	V1	I	電池セル 2 の負極入力端子、および、電池セル 1 の正極入力端子です。 接続セル数が 3 セル、または 4 セルの場合は、GND 端子に短絡してください。
7	GND	—	グラウンド端子です。
8	/ALARM	O	アラーム信号出力端子です。 CMOS 出力時： 過充電・断線未検出時には“H”レベル(VDD 電源レベル)となり、過充電・断線検出時には、“L”レベル(GND レベル)を出力します。その逆も設定可能です。 Nch オープンドレイン出力： 過充電・断線未検出時には“Hi-Z”レベルとなり、過充電・断線検出時には、“L”レベル(GND レベル)を出力します。その逆も設定可能です。 Pch オープンドレイン出力時： 過充電・断線未検出時には“Hi-Z”レベルとなり、過充電・断線検出時には、“H”レベル(VDD 電源レベル)を出力します。その逆も設定可能です。

## ■ 絶対最大定格

(GND= 0 V, Ta = 25 °C)

項 目	記 号	条 件	定格値	単 位
電源電圧	V <sub>DD</sub>	VDD 端子に適用	−0.3 ~ +32	V
入力電圧	V <sub>IN</sub>	V5~V1 端子に適用 V <sub>n+1</sub> − V <sub>n</sub> 端子間電位差 (注 1) V1 − GND 端子間電位差	−0.3 ~ +6.5	V
	V <sub>IN2</sub>	V2-V1 端子間に適用 V2-V1 端子間セルバランススイッチ OFF 時	−0.3 ~ +7.5	V
	V <sub>IN5</sub>	V5 端子に適用	−0.3 ~ V <sub>DD</sub> +0.6	V
	V <sub>IN5</sub>	V5 端子に適用	−0.3 ~ V <sub>DD</sub> +0.6	V
出力電圧	V <sub>OUT1</sub>	/ALARM 端子 (CMOS、Pch オープンドレイン) に適用	−0.3 ~ V <sub>DD</sub> +0.3	V
	V <sub>OUT2</sub>	/ALARM 端子 (Nch オープンドレイン) に適用	−0.3 ~ +32	V
セルバランス電流	I <sub>CB</sub>	セルバランススイッチ 1 個当たり	100	mA
出力短絡電流	I <sub>OS</sub>	/ALARM 端子に適用	10	mA
許容損失	P <sub>D</sub>	JEDEC4 層基板実装時	730	mW
保存温度	T <sub>STG</sub>	—	−55~+150	°C

注 1: 電池セル接続時、または、取り外し時に V<sub>n+1</sub> − V<sub>n</sub> 端子間電圧が、定格値を超え破壊を引き起こす可能性がありますので、十分ご評価の上でご使用ください。

## ■ 推奨動作条件

(GND= 0 V)

項 目	記 号	条 件	範 囲	単 位
電源電圧	V <sub>DD</sub>	—	5~25	V
動作温度	T <sub>OP</sub>	—	−20~+85	°C

## ■ 電気的特性

## ● 直流特性

 $V_{DD}=5\sim 25V$ ,  $GND=0V$ ,  $T_a=-20\sim +85^{\circ}C$ 

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
V5～V1 端子 断線検出用吸い込み電流	$I_{VCL}$	各セル電圧=3.6V 時 $T_a=0\sim 60^{\circ}C$	30	100	300	nA
/ALARM 端子 “H”出力電圧	$I_{OHA}$	$I_{OH}=-100\mu A$	$V_{DD}-0.2$	—	$V_{DD}$	V
/ALARM 端子 “L”出力電圧	$V_{OLA}$	$I_{OL}=100\mu A$	0	—	0.2	V
/ALARM 端子 出力リーク電流	$I_{OLKA}$	Hi-Z 状態出力時	-2	—	2	$\mu A$
V5～V2 端子 セルバランススイッチ ON 抵抗	$R_{BL1}$	内蔵バランス FET $V_{n+1}-V_n=0.3V$ $V_{DD}-V_3\geq 6V$ $V_{DD}=9V\sim 25V$	3	6	12	$\Omega$
V1 端子 セルバランススイッチ ON 抵抗	$R_{BL2}$	内蔵バランス FET $V_1=2.1V$ $V_{DD}=9V\sim 25V$	38	57	91	$\Omega$

## ● 消費電流特性

 $V_{DD}=5\sim 25V$ ,  $GND=0V$ ,  $T_a=-20\sim +85^{\circ}C$ 

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
動作時消費電流	$I_{DD}$	各セル電圧=3.6V 時 出力無負荷時 $T_a=0\sim 60^{\circ}C$	—	1	2	$\mu A$
	$I_{DDT}$	各セル電圧=3.6V 時 出力無負荷時 $T_a=-20\sim 85^{\circ}C$	—	1	3	$\mu A$

(注)  $V_{DD}$  端子の消費電流です。V5～V1 端子の入力電流、および、/ALARM 端子の出力電流は含みません。

● 検出電圧特性 ( $T_a=0\sim 60^{\circ}C$ ) $V_{DD}=18V$ ,  $GND=0V$ ,  $T_a=0\sim 60^{\circ}C$ 

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
過充電検出電圧	$V_{OV}$	—	$V_{OV}-25m$	$V_{OV}$	$V_{OV}+25m$	V
過充電解除電圧	$V_{OVR}$	$V_{OV}-V_{OVR}\leq 50mV$	$V_{OVR}-25m$	$V_{OVR}$	$V_{OVR}+25m$	V
		$V_{OV}-V_{OVR}>50mV$	$V_{OVR}-35m$	$V_{OVR}$	$V_{OVR}+35m$	V
セルバランス検出電圧	$V_{CB}$	—	$V_{CB}-25m$	$V_{CB}$	$V_{CB}+25m$	V
セルバランス解除電圧	$V_{CBR}$	$V_{CB}-V_{CBR}\leq 50mV$	$V_{CBR}-25m$	$V_{CBR}$	$V_{CBR}+25m$	V
		$V_{CB}-V_{CBR}>50mV$	$V_{CBR}-35m$	$V_{CBR}$	$V_{CBR}+35m$	V
断線検出/解除電圧	$V_{OW}$	—	0.5	0.6	0.7	V
時短テストモード移行 VDD-V5 端子電位差	$V_{TSTT}$	$T_a=25^{\circ}C$	10	—	—	V
時短テストモード復帰 VDD-V5 端子電位差	$V_{TSTR}$	$T_a=25^{\circ}C$	0	—	3	V

## ● 検出遅延時間特性 (Ta=0~60°C)

V<sub>DD</sub>=18V, GND=0 V, Ta=0~60°C

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
セル電圧モニタ周期	t <sub>DET</sub>	—	300	400	500	ms
セル電圧モニタ区間	t <sub>MON</sub>	—	37	50	63	ms
セルバランス区間	t <sub>BAL</sub>	—	262	350	438	ms
過充電検出遅延時間 設定範囲	t <sub>OV</sub>	検出周期で規定	0	—	14	周期
セルバランス検出遅延時間 設定範囲	t <sub>CB</sub>	検出周期で規定	0	—	14	周期
断線検出/解除遅延時間 設定範囲	t <sub>OW</sub>	検出周期で規定	0	—	14	周期
時短テストモード時 セル電圧モニタ周期	t <sub>DETT</sub>	Ta=25°C	75	100	125	ms
時短テストモード時 セルバランス区間	t <sub>BALT</sub>	Ta=25°C	37	50	63	ms
時短テストモード時 過充電検出遅延時間 セルバランス検出遅延時間 断線検出/解除遅延時間	t <sub>DLYT</sub>	検出周期回数で規定	—	—	1	周期

## ● コード 001 : 設定パラメータ

V<sub>DD</sub>=18V, GND=0V, Ta=0~60°C

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
過充電検出電圧	V <sub>OV</sub>	—	4.275	4.300	4.325	V
過充電解除電圧	V <sub>OVR</sub>	—	4.165	4.200	4.235	V
セルバランス検出電圧	V <sub>CB</sub>	—	4.075	4.100	4.125	V
セルバランス解除電圧	V <sub>CBR</sub>	—	4.075	4.100	4.125	V
過充電検出遅延時間	t <sub>OV</sub>	検出周期で規定	3	—	4	周期
セルバランス検出遅延時間	t <sub>CB</sub>	検出周期で規定	1	—	2	周期
断線検出/解除遅延時間	t <sub>OW</sub>	検出周期で規定	1	—	2	周期

## ■ 機能説明

## ● 電池セル数の選択

電池セル数は形名で区別されています。

5 セル用＝ML5206-001、4 セル用＝ML5206-001A、3 セル用＝ML5206-001B

## ● /ALARM 端子出力

過充電・断線検出状態時の/ALARM 端子出力状態を以下に示します。

	/ALARM 端子出力		
	CMOS	Nch オープンドレイン (コード 001)	Pch オープンドレイン
過充電・断線検出状態	“L”レベル	“L”レベル	“H”レベル
未検出状態	“H”レベル	“Hi-Z”レベル	“Hi-Z”レベル

(注) 検出状態と未検出状態の/ALARM 端子出力状態を逆に設定することも可能です。

## ● VDD 端子、V1～V5 端子の処理

VDD 端子は、電源入力端子ですので、誤動作防止のため、ノイズ除去用の RC フィルタを介して電源を供給してください。なお、このノイズフィルタの抵抗値による電圧降下は 0.3V 以下になるように抵抗値を調整してください。

V1～V5 端子は、各電池セル電圧のモニタ端子ですので、誤検出防止のため、ノイズ除去用の RC フィルタを介して各電池セルを接続してください。

## ● 未使用端子の処理

下表に未使用端子の処理方法を示します。

未使用端子	推奨端子処理
V1, V2	GND 端子に接続

## ● 電源投入・遮断順序

各電池セルの接続順序は任意ですが、最下位電池セルより接続し、最後に最上位電池セルを接続することを推奨します。電源投入時の電源電圧立上り時間、電源遮断順序、および、電源電圧立下り時間についての制約はありません。

なお、全ての電池セルを接続するまでの時間が長い場合には、断線検出や過充電検出することに注意してください。

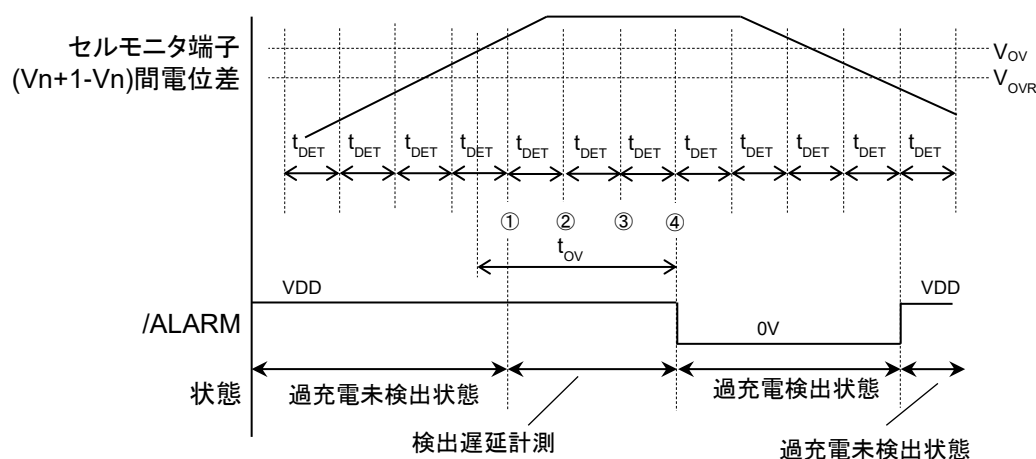
● 過充電検出機能(過充電検出遅延時間=3 検出周期設定の場合)

電源投入後に、セル電圧モニタ周期  $t_{DET}=400\text{ms}(\text{typ})$  でセル電圧のモニタが開始されます。

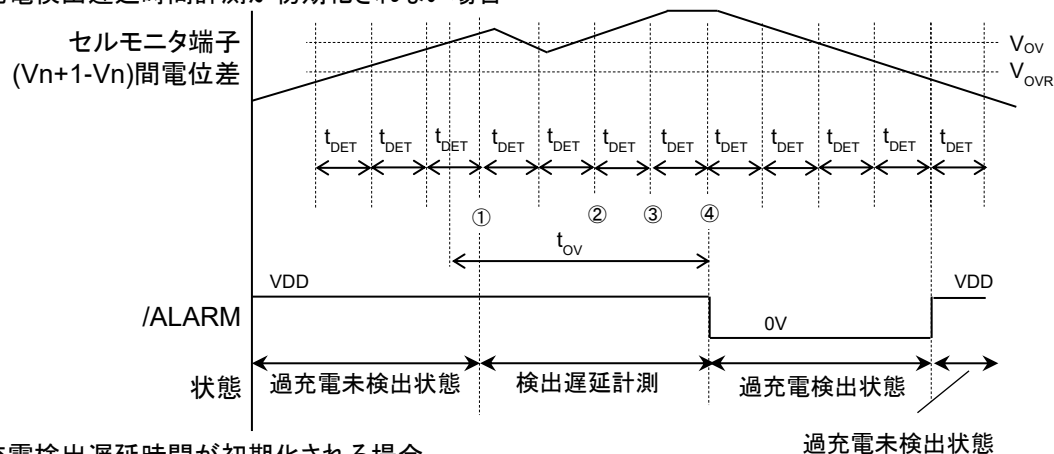
いずれか 1 つ以上の電池セル電圧が過充電検出電圧  $V_{OV}$  以上となった状態が 4 回連続して検出されると、過充電状態を検出し、/ALARM 端子出力タイプが CMOS 出力の場合には、/ALARM 端子出力は”H”レベル出力から”L”レベル出力に変わります。

なお、全ての電池セル電圧が過充電検出電圧  $V_{OV}$  以下となった状態が 1 回検出されただけでは、検出遅延計測は初期化されず、2 回連続して検出された時に初期化されます。

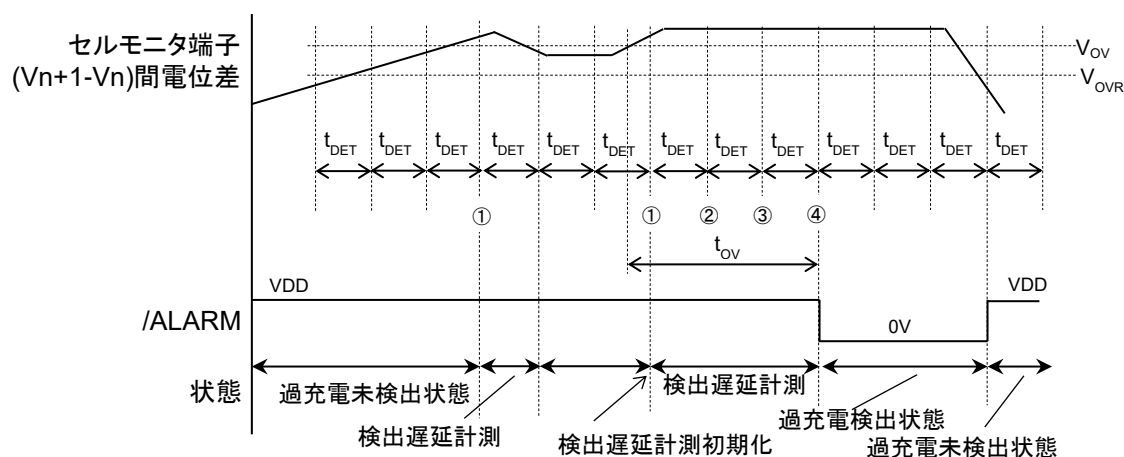
過充電状態検出後、全ての電池セル電圧が過充電解除電圧  $V_{OVR}$  以下になると、/ALARM 端子出力タイプが CMOS 出力の場合には、/ALARM 端子出力は”L”レベル出力から”H”レベル出力へ変わります。



過充電検出遅延時間計測が初期化されない場合



過充電検出遅延時間が初期化される場合



### ● セルバランス機能(セルバランス検出遅延時間=1 検出周期設定の場合)

電源投入後に、セル電圧モニタ周期  $t_{DET}=400\text{ms}(\text{typ})$  でセル電圧のモニタが開始されます。

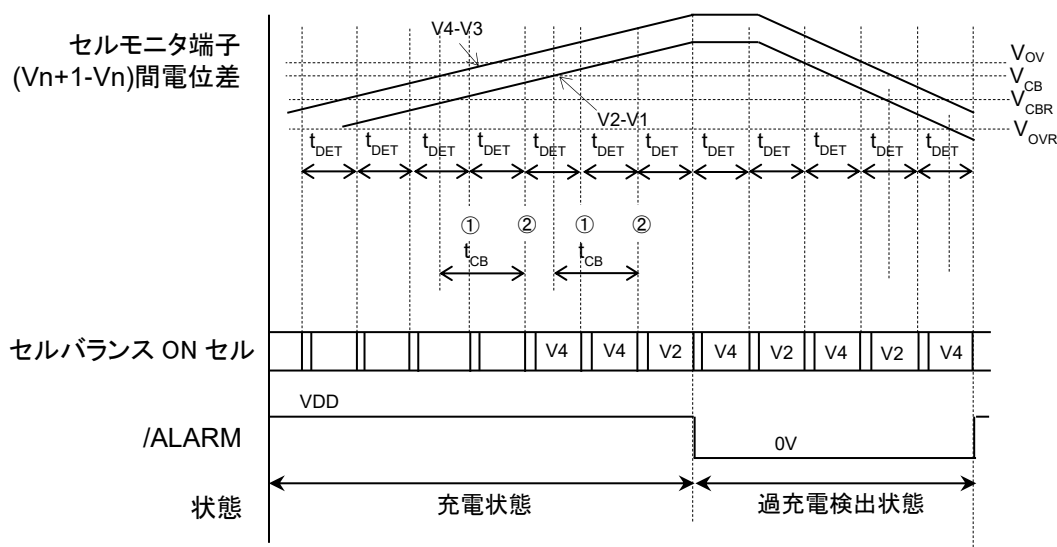
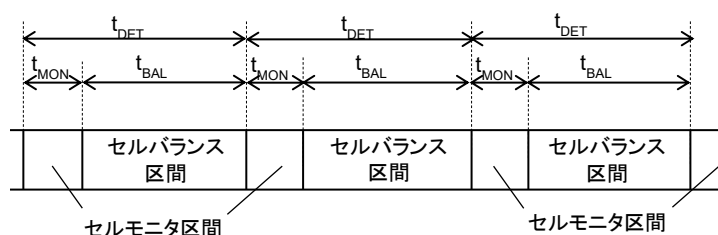
各電池セル電圧がセルバランス検出電圧  $V_{CB}$  以上となった状態が2回連続して検出されると、該当電池セルの内蔵セルバランススイッチが ON 状態となります。ただし、複数の内蔵セルバランススイッチは同時 ON せず、V1 から V5 の順番でセルバランススイッチが1つずつ ON します。

なお、電池セル電圧がセルバランス検出電圧  $V_{CB}$  以下となった状態が1回検出されると、検出遅延計測は初期化されます。

また、セル電圧をモニタするためにセルモニタ区間  $t_{MON}=50\text{ms}(\text{typ})$  では、自動的にセルバランススイッチは OFF し、セルバランススイッチが ON している時間は、セルバランス区間  $t_{BAL}=350\text{ms}(\text{typ})$  となります。

セルバランススイッチが ON しているセル電圧がセルバランス解除電圧  $V_{CBR}$  以下となると、内蔵セルバランススイッチは OFF 状態に戻ります。

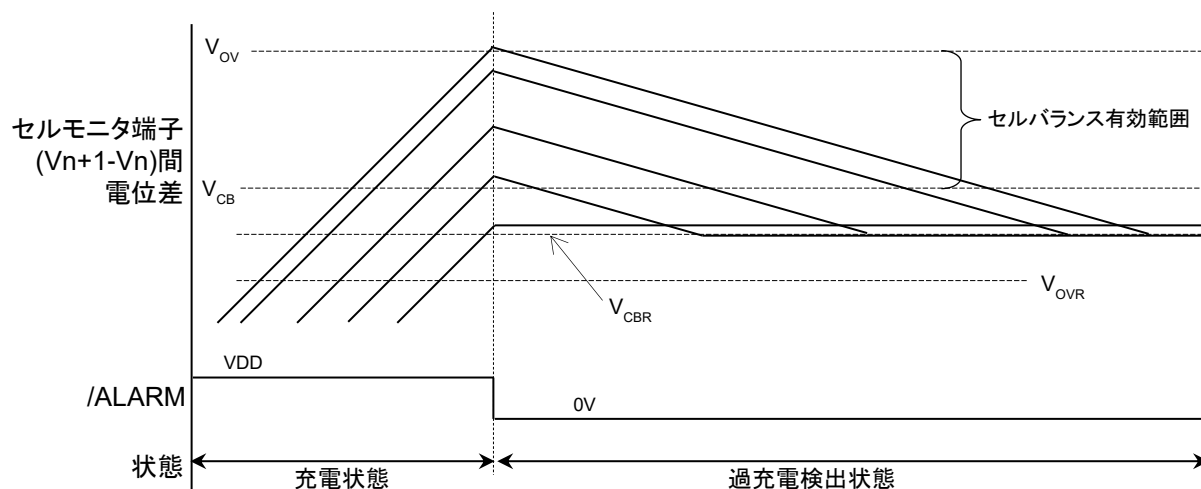
このセルバランス動作は、各セル毎に独立して行われます。





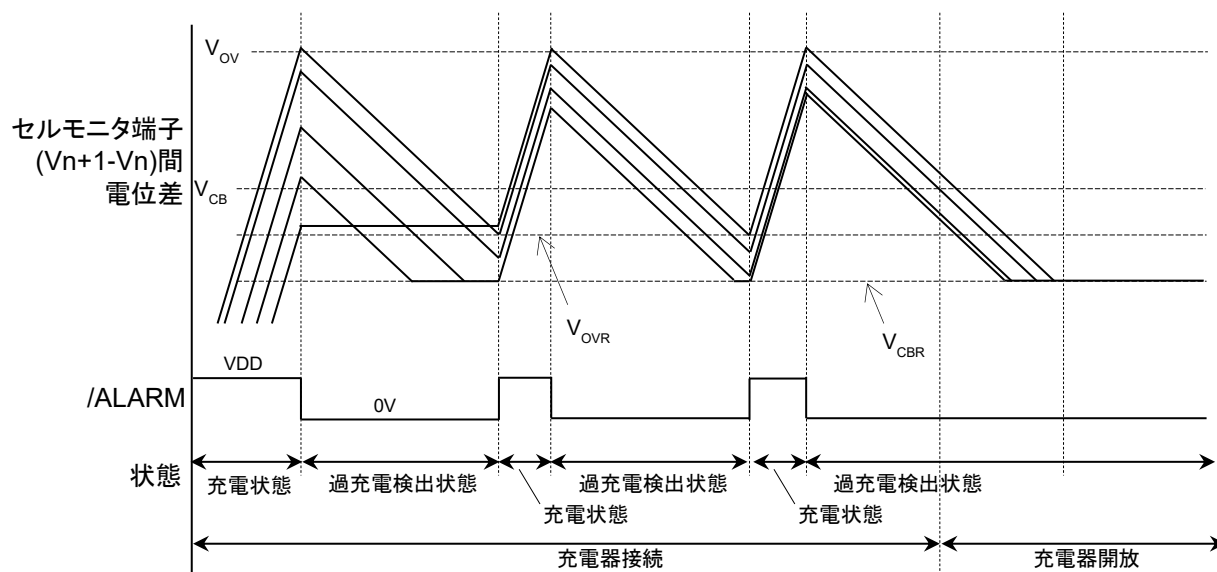
以下に、セルバランス動作の例を示します。

セルバランス解除電圧  $V_{CBR}$  > 過充電解除電圧  $V_{OVR}$  の場合



過充電検出電圧  $V_{OV}$  とセルバランス検出電圧  $V_{CB}$  との間にある電池セルがセルバランスされることになります。

過充電解除電圧  $V_{OVR}$  > セルバランス解除電圧  $V_{CBR}$  の場合



充電器を接続している間は、充電とセルバランスによる放電を繰り返し、充電器を開放後、セルバランス解除電圧  $V_{CBR}$  に収束します。

### ● 断線検出機能(断線検出遅延時間=3 検出周期設定の場合)

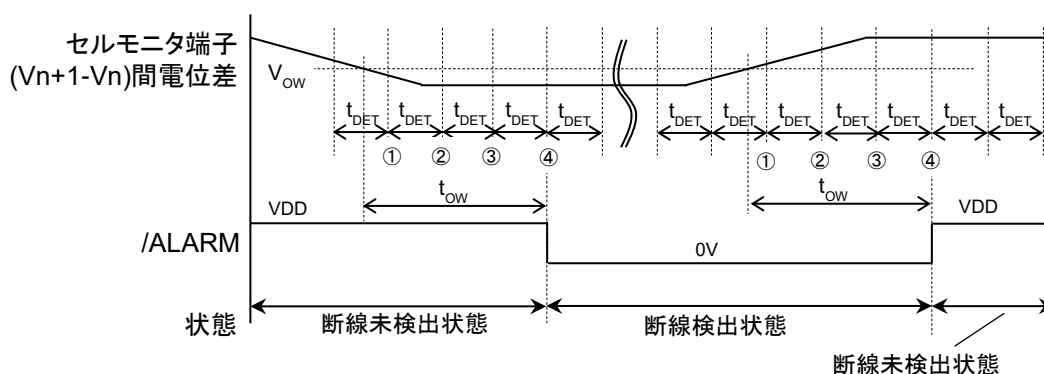
電源投入後に、セル電圧モニタ周期  $t_{DET}=400\text{ms}(\text{typ})$  でセル電圧のモニタが開始されます。

いずれか 1 つ以上の電池セル電圧が断線検出電圧  $V_{OW}$  以下となった状態が 4 回連続して検出されると、断線状態を検出し、/ALARM 端子出力タイプが CMOS 出力の場合には、/ALARM 端子出力は”H”レベル出力から”L”レベル出力に変わります。

なお、全ての電池セル電圧が断線検出電圧  $V_{OW}$  以上となった状態が 1 回検出されると、検出遅延計測は初期化されます。

断線状態検出後、全ての電池セル電圧が断線検出電圧  $V_{OW}$  以上となった状態が 4 回連続して検出されると、/ALARM 端子出力タイプが CMOS 出力の場合には、/ALARM 端子出力は”L”レベル出力から”H”レベル出力へ変わります。

なお、いずれか 1 つ以上の電池セル電圧が断線検出電圧  $V_{OW}$  以下となった状態が 1 回検出されると、検出遅延計測は初期化されます。



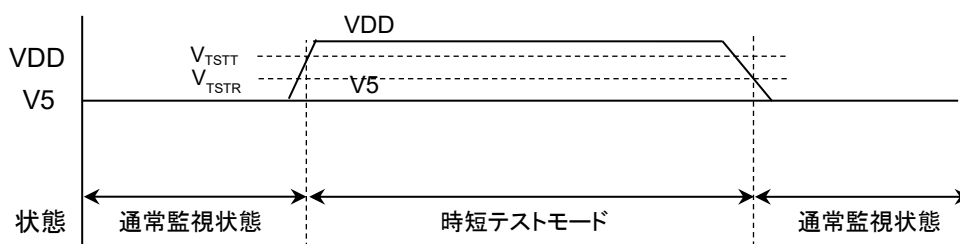
### ● 時短テストモード

セル電圧モニタ周期を 100ms(typ)、セルバランス区間を 50ms(typ)、過充電検出遅延時間、セルバランス検出遅延時間、および、断線検出/解除遅延時間を最大 1 検出周期に短縮できるテストモードを搭載しています。

時短テストモードへの移行は、VDD 端子の電圧を V5 端子より 10V 以上の高い電圧に設定することで行います。

時短テストモードから通常状態への復帰は、V5 端子電圧と VDD 端子電圧の電位差を 3V 以下にすることによって行われます。

このテストモードを使用することで、基板実装後のテスト時間を大幅に短縮することができます。



- 過充電検出/解除電圧、セルバランス検出/解除電圧の設定可能範囲と設定ステップ電圧  
過充電検出電圧と過充電解除電圧、および、セルバランス検出電圧とセルバランス解除電圧は、下表のように設定を変更することが可能です。ただし、組み合わせによっては設定できない場合がありますので、問い合わせをお願いします。

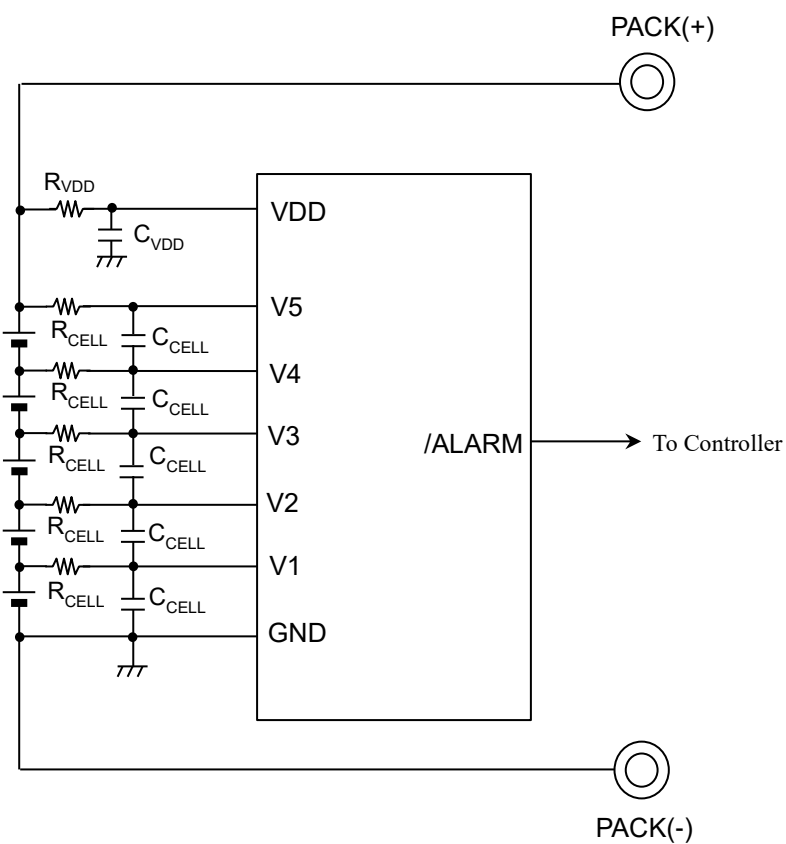
検出電圧	設定範囲	ステップ電圧
過充電検出電圧 $V_{OV}$	4.0V~4.4V	5mV
過充電解除電圧 $V_{OVR}$	$V_{OV}-(0\sim200\text{mV})$	10mV
セルバランス検出電圧 $V_{CB}$	4.0V~4.4V	5mV
セルバランス解除電圧 $V_{CBR}$	$V_{CB}-(0\sim200\text{mV})$	10mV

- 過充電/セルバランス検出遅延時間、断線検出遅延/解除時間の設定可能範囲  
過充電検出遅延時間、セルバランス検出遅延時間、および、断線検出/遅延遅延時間は、下表の中から選択できます。

遅延時間	設定可能範囲(検出周期)														単位
過充電検出遅延時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	周期
	~1	~2	~3	~4	~5	~6	~7	~8	~9	~10	~11	~12	~13	~14	
セルバランス検出遅延時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	周期
	~1	~2	~3	~4	~5	~6	~7	~8	~9	~10	~11	~12	~13	~14	
断線検出/解除遅延時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	周期
	~1	~2	~3	~4	~5	~6	~7	~8	~9	~10	~11	~12	~13	~14	

遅延時間	設定可能範囲(検出周期=400ms)														単位
過充電検出遅延時間	0	0.4	0.8	1.2	1.6	2.0	2.4	2.8	3.0	3.6	4.0	4.4	4.8	5.2	秒
	~0.4	~0.8	~1.2	~1.6	~2.0	~2.4	~2.8	~3.2	~3.6	~4.0	~4.4	~4.8	~5.2	~5.6	
セルバランス検出遅延時間	0	0.4	0.8	1.2	1.6	2.0	2.4	2.8	3.0	3.6	4.0	4.4	4.8	5.2	秒
	~0.4	~0.8	~1.2	~1.6	~2.0	~2.4	~2.8	~3.2	~3.6	~4.0	~4.4	~4.8	~5.2	~5.6	
断線検出/解除遅延時間	0	0.4	0.8	1.2	1.6	2.0	2.4	2.8	3.0	3.6	4.0	4.4	4.8	5.2	秒
	~0.4	~0.8	~1.2	~1.6	~2.0	~2.4	~2.8	~3.2	~3.6	~4.0	~4.4	~4.8	~5.2	~5.6	

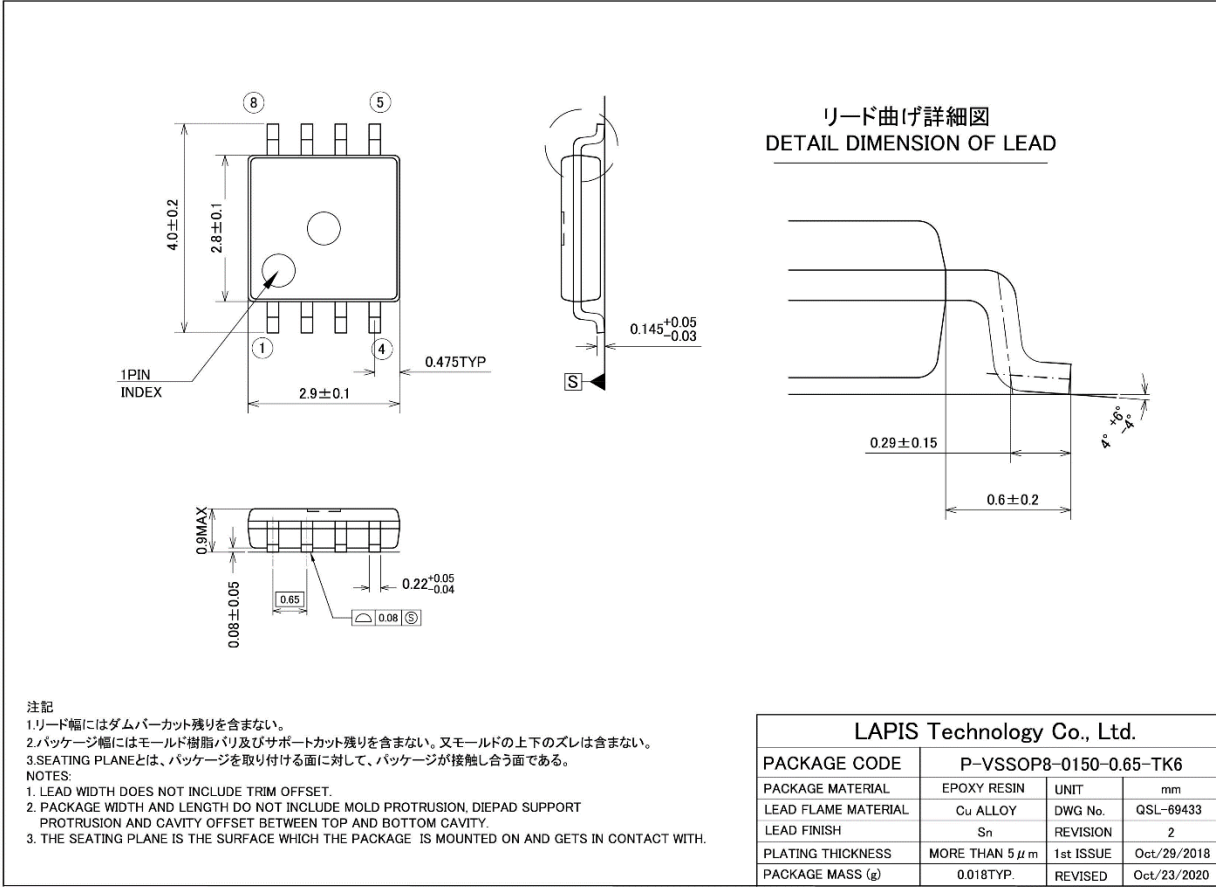
## ■ 応用回路例 (5 セル接続時)



## ■ 外付け部品推奨値

部品	推奨値
$R_{VDD}$	1k $\Omega$
$C_{VDD}$	4.7 $\mu$ F
$R_{CELL}$	51 $\Omega$
$C_{CELL}$	0.1 $\mu$ F

■ パッケージ寸法図



表面実装型パッケージ実装上の注意

表面実装型パッケージは、リフロー実装時の熱や保管時のパッケージの吸湿量等に変影響を受けやすいパッケージです。したがって、リフロー実装の実施を検討される際には、その製品名、パッケージ名、ピン数、パッケージコード及び希望されている実装条件（リフロー方法、温度、回数）、保管条件などを弊社担当営業まで必ずお問い合わせ下さい。

■ 改版履歴

ドキュメント No.	発行日	ページ		変更内容
		改版前	改版後	
FJDL5206-01	2020.11.27	—	—	初版発行
FJDL5206-02	2024.01.09	1	1	■用途、■形名を追記
		15	15	ご注意のページ差し替え

## ご注意

- 1) 本製品をご使用の際は、最新の製品情報をご確認の上、絶対最大定格<sup>(※1)</sup>、動作条件その他の指定条件の範囲内でお使いください。指定条件の範囲を超えて使用された場合や、使用上の注意を守ることなく使用された場合、その後に発生した故障、誤動作等の不具合、事故、損害等については、ラピステクノロジー株式会社(以下、「当社」といいます)はいかなる責任も負いません。また、指定条件の範囲内のご使用であっても、半導体製品は種々の要因で故障・誤作動する可能性があります。万が一本製品が故障・誤作動した場合でも、その影響により人身事故、火災損害等が起らないよう、お客様の責任において、ディレーティング、冗長設計、延焼防止、バックアップ、フェイルセーフ等お客様の機器・システムとしての安全確保を行ってください。  
(※1)絶対最大定格：瞬時たりとも超過してはならない限界値となります。
- 2) 本資料に掲載されております製品は、耐放射線設計がなされていません。
- 3) 本資料に記載されております応用回路例やその定数、ソフトウェア等の情報は、半導体製品の標準的な動作例や応用例を説明するものです。お客様の機器やシステムの設計においてこれらの情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。また、量産設計をされる場合には、外部諸条件を考慮していただきますようお願いいたします。これらのご使用に起因して生じた損害等に関し、当社は一切その責任を負いません。
- 4) 本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の技術情報は、それをもって当該技術情報に関する当社または第三者の知的財産権その他の権利を許諾するものではありません。したがって、当該技術情報を使用されたことによる第三者の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は何ら責任を負うものではありません。
- 5) 当社は、本資料に明示した用途で本製品が使用されることを意図しています。本資料に明示した用途以外への使用を検討される場合は、必ず営業窓口までお問い合わせください。また、本製品を、医療機器分類クラスⅢ、Ⅳに該当する用途に使用される際は、必ず当社へご連絡の上、書面にて承諾を得てください。  
本製品を、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム、極めて高い信頼性を要求される機器(航空宇宙機器、原子力制御機器、海底中継機器等)に使用することはできません。当社の事前の書面による承諾なく、当社の意図していない用途に製品を使用したことにより生じた損害等に関し、当社は一切その責任を負いません。
- 6) 本資料に記載の内容は、改良などのため予告なく変更することがあります。本製品のご使用、ご購入に際しては、必ず事前に営業窓口で最新の情報をご確認ください。本資料に記載されております情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、万が一、当該情報の誤り・誤植に起因して、お客様に損害が生じた場合においても、当社はその責任を負うものではありません。
- 7) 本製品のご使用に際しては、RoHS 指令など適用される環境関連法令を遵守の上ご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 8) 本製品および本資料に記載の技術を輸出または国外へ提供する際には、「外国為替及び外国貿易法」、「米国輸出管理規則」など適用される輸出関連法令を遵守し、それらの定めにしたがって必要な手続を行ってください。
- 9) 本資料に記載されている内容または本製品についてご不明な点がございましたら営業窓口までお問い合わせください。
- 10) 本資料の一部または全部を当社の許可なく、転載・複写することを堅くお断りします。

Copyright 2020 – 2024 LAPIS Technology Co., Ltd.

# ラピステクノロジー株式会社

〒222-8575 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-4-8

<https://www.lapis-tech.com>